

沖縄県青年海外協力隊を支援する会会報

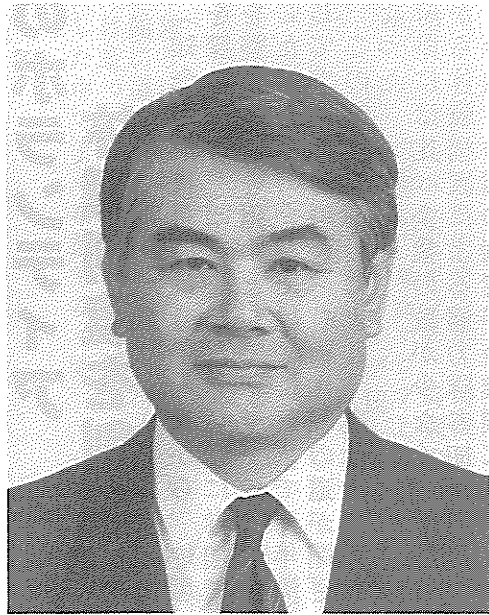
(題字：末次 一郎氏)

はいむるぶし

(沖縄県八重山地方の方言で南十字星の意)

創刊号

〒901-21 沖縄県浦添市前田1143-1
国際協力事業団沖縄国際センター内
TEL098-876-6000(代)
沖縄県青年海外協力隊を支援する会
発行責任者：事務局長 平川宗隆



『はいむるぶし』創刊によせて

今年の三月、青年海外協力隊について県民に広く理解してもらおうと、社会的な環境整備を側面から支援しようと言った。末次先生をはじめとする多くの方々が尽力により、青年海外協力隊を支援する会が発足され、半年が過ぎました。この間、新たに3名の隊員が海外へ赴任し、2名の隊員がその任務を終えて帰国してあります。現在、協力隊の活動状況については、特に県出身者については情報も乏しく、あまり知られていないのが現状であり、この度の「はいむるぶし」の創刊は、予てからその必要性を感じておりました。また、今後の広報活動の促進につながるものと大いに期待しております。進路相談会や現在私に2回青年海外協力隊のセラ1会議に参加して、そのカウンの受ける報告の活躍であります。よく話題になるのが、

彼らに共通しているのが、特に任地での適応能力に優れている点で、現地の人々への溶け込みに早く、また皆からの人望も厚いと、神が、異国の地においても十分に発揮されているように感じます。私には、この夏南米を訪れ、ポリビアのニア沖繩に到着して、「入殖四十周年記念」の式典に参列致しました。以前、移住者の方々の苦闘の連続であり、この生活は、想像を絶する苦勞は筆舌に尽くしがたいものでした。華やかな式典の蔭に入殖当時の血の滲むような努力があることを思い浮かべ、先輩方の偉業にあらためて驚嘆致しました。先輩方の偉業に時代、東南アジアを中心に雄飛し、大交易時代を築いたとされる先人の血を継いでいるのでしよう。誠に頼もしい限りであります。梁のかけ橋として、世界に活躍するウチナーンチュの姿に国際協力の原点のようなのを見ることができました。国際化が進むなか、わが国の国際協力の在り方が問われております。技術援助を中心とする人的支援の必要性が、うやく社会的に認識され、協力隊の役割がより重要になって参りました。それと同時に彼らを支え、そして育成していくための環境づくりが必要とされるようになってきました。県内にもボランティアも現れており、次第に県民の関心も高まるものと期待しております。県民の関心も私共も、協力隊を出ておられる限りバックアップしていきたく、協力隊を考えておられますので皆様のご理解とご協力をお願い致します。

沖縄県青年海外協力隊を支援する会 会長 稲嶺 恵一

はいむるぶし

県内初のボランティア 休職制度を創設

りゆうせき（知念栄治社長）は今年七月から、地域社会への貢献を探るため、ボランティア活動に参加できる環境作りを整えるのを狙いとしてボランティア休職制度を創設した。県内の企業では、これまで青年海外協力隊員として参加する場合、有給休職の道が閉ざされていたが、この制度の創設により、道は大きく開かれることになった。

県内では他府県には比べ企業の数が少なく、帰国後の就職の心配から休職措置による協力隊参加が困難な状況であるが、今後この種の制度が企業間に理解されることにより、若者の協力隊参加への意欲の増大が期待される。

これについての関連記事が、平成五月十七日発行の琉球新報朝刊と同日十九日発行の沖縄タイムスタ刊に掲載されているが、ここでは紙面の都合上、新報の記事を紹介する。

ボランティア休職制度導入へ 給料最大6割を保証

りゆうせき（知念栄治社長）は七月一日から「ボランティア休職制度」を導入する。この制度は、ボランティア活動をする人に給料最大六割を保証し、最短期間、最大二年間の休職期間を与えようというものである。海外青年協力隊への参加などを想定しているというが、同社では制度の目的を、「社の企業精神」「地域と調和」を具現化するもので、社員の社会貢献意識の啓蒙と、その自発的な意思を会社として支援するものとして位置付け、該当するボランティア活動とは①人と②心と心の触れ合いを、励まし合う活動③心と心の触れ合いを、励まし合う活動④心を支え合う活動⑤心を支え合う活動⑥心を支え合う活動⑦心を支え合う活動⑧心を支え合う活動⑨心を支え合う活動⑩心を支え合う活動⑪心を支え合う活動⑫心を支え合う活動⑬心を支え合う活動⑭心を支え合う活動⑮心を支え合う活動⑯心を支え合う活動⑰心を支え合う活動⑱心を支え合う活動⑲心を支え合う活動⑳心を支え合う活動㉑心を支え合う活動㉒心を支え合う活動㉓心を支え合う活動㉔心を支え合う活動㉕心を支え合う活動㉖心を支え合う活動㉗心を支え合う活動㉘心を支え合う活動㉙心を支え合う活動㉚心を支え合う活動㉛心を支え合う活動㉜心を支え合う活動㉝心を支え合う活動㉞心を支え合う活動㉟心を支え合う活動㊱心を支え合う活動㊲心を支え合う活動㊳心を支え合う活動㊴心を支え合う活動㊵心を支え合う活動㊶心を支え合う活動㊷心を支え合う活動㊸心を支え合う活動㊹心を支え合う活動㊺心を支え合う活動

■現在派遣中の県出身隊員12名

沖縄県出身の隊員は12月5日現在で12名にのぼっている。派遣国別ではカンボディア(1)、タイ(2)、スリランカ(1)、ガーナ(1)、ザンビア(1)、エチオピア(1)、コートジボアール(1)、シリア(2)、コスタ・リカ(1)、ニカラグア(1)となっている。なお、職種別では美容師、食品加工、家畜飼育、稲作、義肢補装具作成、体育、経済、薬剤師、陸上競技、電気機器、理学療法士、染色と多岐にわたっている。また、OB、OGの中からさらに、隊員の世話をする調整員として再度途上国へ派遣中が3名おり、合計では15名になる。

氏名	性別	派遣国	業種名	任期满了日
伊良波真正	男	カンボディア	美容師	95, 02, 15
座喜味秀将	男	タイ	食品加工	95, 04, 05
上原 亮	男	タイ	家畜飼育	95, 07, 13
小島 伸幾	男	スリ・ランカ	稲作	95, 12, 05
田崎 実也	男	ガーナ	義肢補装具作成	95, 12, 05
浦崎理世子	女	シリア	体育	95, 12, 06
當山 清実	男	ニカラグア	経済	95, 12, 09
町田 宗和	男	ザンビア	薬剤師	95, 12, 20
富底 利一	男	コスタ・リカ	陸上競技	96, 04, 07
花城 康秀	男	エチオピア	電気機器	96, 04, 07
波平 京美	女	シリア	理学療法士	96, 04, 07
松野由里子	女	コートジボアール	染色	96, 07, 12
古波津智代	女	トンガ	調整員	95, 01, 11
金城 睦子	女	マレーシア	調整員	95, 08, 17
比嘉 正之	男	ハンガリー	調整員	96, 10, 31

間の休職期間原則一年で、最短で六カ月、最長で二年間支給は可能。休職期間中の待遇は月給は最大六割、賞与は支給しない。復職時の処遇は、休職前の格付けを下らない。規定している。休職資格は勤続三年以上で、休職制度を利用できる社員資格は勤続三年以上で、休職後、引き続き勤務する意思のある者。

(平成六年五月十七日琉球新報より)

はいむるぶし

「協力隊現地視察の旅」団長に 県内から二人のOB・OGが参加

隊員の暮らしや活動の様子を実際に自分の目で確かめたいと、家族や友人等の参加者が年々増加している「現地活動視察の旅」が今年度も七月から始まった。

協力隊の派遣国も年々増加の傾向にあり、「視察の旅」も今年度は、昨年度のコースから七コース増やした二十五コースを実施することになった。

「沖縄県青年海外協力隊を支援する会」が今年三月に発足したことにより、本会から初めて、善平朝信OB（インド・四五―三）と森田直美OG（スリランカ・五九―三）がそれぞれ、バングラデシュ・プリータンコース、インド洋コースの団長として参加、無事大任を果し、このほど帰国した。

「視察の旅」は、参加者は勿論のこと、団長として参加の意志があるものも会員が条件となるので、早めに入会の手きをとるようにしてください。

今回はバングラデシュコース団長を勤めた善平朝信OBのレポートを紹介する。

アッサラム・アライクム

―協力隊現地視察の旅から―

平成六年一月八日―二月二六日の九日間、平成六年度協力隊活動現地視察の旅の団長として、バングラデシュには四七五人の協力隊員が派遣され、現在七五人が各分野で活躍して動いている隊員の父母の一人八人であった。

バングラデシュ

バングラデシュは成田から航空機で約六時間でバンコクへ渡り、バンコクから首都のダッカまで約二時間の旅で、インド亜大陸世界の最東端に位置し、東南アジアとの接点である。日本の約半の国土に推定一億八〇〇万人が住んでおり、どこでも人が満ち溢れている感じがする。宗教はイスラム教が八七%で国教とされているが、ヒンズー教、仏教もみられる。

一月一九日、現地時間の一二時にダッカ空港から一歩そとに出るとムッとした熱気が体をつつむ。ここでも通路まで人が溢れ、人垣をかき分けてやっと迎えのマイクロバスに乗り込んだ。

ダッカ市内の通りは人、車、人力車、人、ミニタクシー（スクーターを三輪に屋根をつけたもの）、バイク、が少しのスペースを見つけ走っている。しかも、警笛を鳴らさず驚つかされた。

バングラデシュの旅に参加した父母の現地視察感想語録

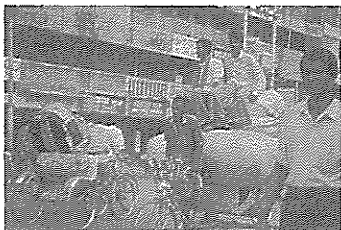
- ダッカ市内の交通混沌とした中でよく事故もなく車、人力車、人、ミニタクシー、バイク、走っているのに度肝を抜かれたが二三日して慣れてくるこちらのリズムがあることが解った。
 - 一〇〇年前にタイムスリップした気分である。毎朝午前四時頃からコーランの祈りの歌がスピーカーから流され眠れない。
 - 日本の暮らし易さをひしひしと感じている。日本はすばらしい国だ。生水は飲むなと言われているので、歯磨きもミネラルウォーターを使用している。
 - 自分の息子（娘）がこんなに現地の言葉を話すのにびっくりするとともに頼もしく感じている。
 - 息子は理数科の教師をしているが、その学校で息子に通訳させ四クラスで日本人は何事にも一生懸命やるので国は発展したと言う演説を満足している。
 - 貧民街の人々の極限の生活や身障者の乏食は国が何とかやれないものかと思う。
 - バングラデシュはベンガル語でスンドール（美しい、すばらしい）、ドノバード（有り難う）。
- 以上各人名様の印象や感想であったが、いずれにせよ日本との違いにびっくりし、世界にはこんな国、こんな暮らしもあるのかという思いが強かったようだ。そしてこのような所で自分の息子や娘が事故もなくがんばっていることに対して感心するとともに敬意を表したいとのことであった。



▲小石の少ない粘土質の土地がら建築や道路工事用のジャリ石はレンガを砕いて代用



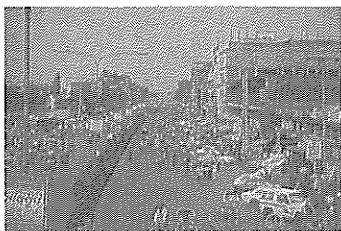
▲バザール（市場）では様々な野菜果物を販売しているゴーヤー、チブルetc.



▲しょ民の足は、もっぱらリキシャー（日本語の力車から転化）人も荷物もリキシャーで



▲のら牛が道路をわがもの顔でのんびり散歩



▲首都ダッカの道路状況、やはりリキシャーが圧倒的に多い。

はいむるぶし

沖縄県青年海外協力隊を支援する会

設立総会を開催！

さる三月二十三日、浦添市の国際協力事業団沖縄国際センターにおいて、設立総会が開かれた。育てる会各県組織では二十四番目で、全国を一巡する折返点にあたる。

第一部設立総会には県、JICA関係者、県内国際交流団体、財界、報道関係者など六十余名が出席し、会則、役員、事業計画、収支予算等が審議され、総会の承認を受けた。引き続き第二部来賓祝辞では、大田昌秀沖縄県知事、儀間光男沖縄県議会議長、宜保成幸浦添市長、森本勝協力隊事務局次長らの祝辞があった。第三部帰国隊員報告として、幸喜仁OB(モロッコ・水泳)、山口博子OG(バンングラデシユ・家畜飼育)らが現地活動状況を報告した。また、記念講演として末次一郎(社)協力隊を育てる会副会長は、「日本の国際協力と協力隊」と題して講演し、聴衆に感銘を与えた。

総会後の懇親会では、福地曠昭(財)沖縄県国際交流財団前副理事長の乾杯の音頭で会が始まり、和やかなうちに式典を終了した。なお、役員には次の方々が選出された。任期は二年間。

Table with columns for positions (顧問, 会長, 副会長, 理事, 事務局) and names of members from various organizations like 那覇商工会議所, 沖縄県農業協同組合, etc.

事務局だより

- Calendar of events from March to December, including '設立総会' (March), '協力隊募集説明会' (April), '視察の旅' (September), and '協力隊秋募集説明会' (December).

Table listing the board of directors (監事) and management committee (運営委員) members, including names like 吳守章, 島永伸, 知念義実, etc.